

# 平成 30 年度

## ソフィアだより 8 月号

どの子の手を握ってみても、  
頬を撫でてみても、かわりなきは、その肌の柔らかさである。  
なかには、随分よごれているのがあっても、やっぱりやわらかい。  
子どもの心のはだも同じである。

倉橋惣三

水遊びをしている子どもたちの肌を、お日様の光があたってきらきら輝く。  
笑顔で歓声をあげる姿に、『生きる』。そのものが目に見えて私たちが力をもらいます。  
幼児教育に力を注ごうと国をあげて、取り組むようになり、いろいろな制度が整備され  
たり改革されたりしています。保育の指針としても、3 法令改定で、乳幼児期のこども  
たちが幼児期のおわりまでに（就学までに）育ってほしい姿を『10 の姿』としてあら  
わしています。第一番目にあらわされているのが、

① 健康な心と身体です。

水遊びをする子どもたちはそれぞれに充実感を感じ楽しく遊びを楽しんでいます。  
活動的に動くことだけが健康な心と身体像ではなく、水遊びを活発に楽しんだあと、静  
かにすごしたり、水分補給をしたり、生活の中で、メリハリある行動が自らできる力が  
健康な心と身体をもつこどもの姿かと思います。子ども自身が、自分の体の状態を自分  
で理解するということはとても重要です。赤ちゃんは、生まれながら、発達の順番がプ  
ログラミングされて生まれてきます。時間とともに同じ順番で同じような時期にできる  
ことがふえてきます。首が据わり～寝返り～おすわり～はいはい～つかまり立ち～つた  
い歩き～1 人で歩く。体の発達とともに外界の刺激から言葉を覚えたり知的な学習もで  
きてきます。身体は時間とともに成長しますが、心も、そして、健康な身体として成長  
するためには、一方通行ではない大人の応答的なかわりが不可欠です。子どもたちが  
自分の体調を把握し安心する場所として主体的に活動できる保育の場としていくこと。  
に努力していきたいと思います。ソフィア時代の経験で得た健康な心と身体をもつこと  
で、就学後も、自分のことをよりよくわかり、やってみよう！というやる気につながり  
ます。45 分の授業をいすに座り先生に注目する力もでてきます。見通しをもてる生活  
をすごせます。夏は開放的な気分になり、時間の管理が難しいですが、子どもたち自身  
でルールを決めて健康的な園生活をすごす保育を目指します。

ソフィア東生駒こども園 園長中畑直実